

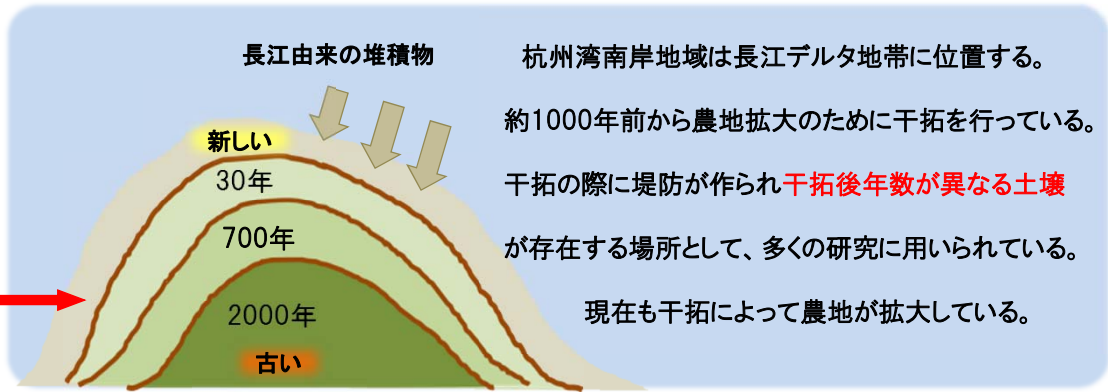
402. 杭州湾南岸地域に分布する干拓後年数の異なる水田土壌の理化学的特徴と炭素貯留

生物生産学専攻 栽培土壌学分野 佐藤 麻都香



背景

中国 浙江省 杭州



数千年の歴史を持つ水田土壌はどのような変化をとげてきたのだろうか？

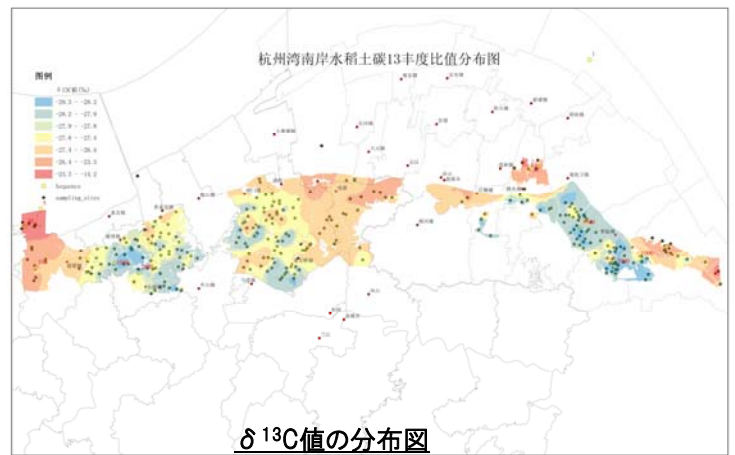
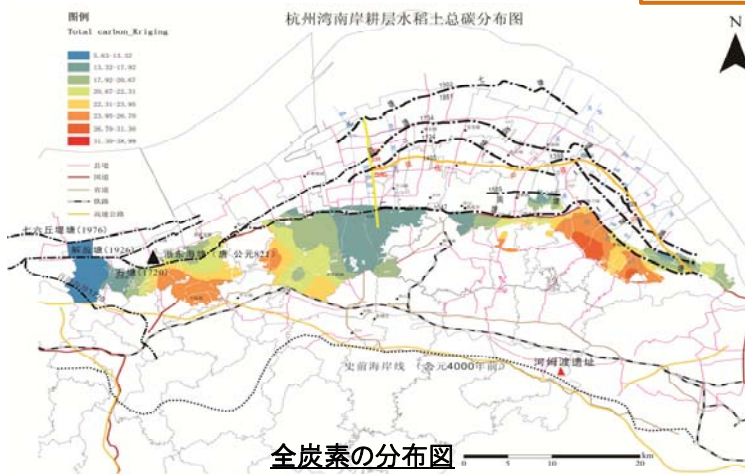
目的

干拓後年数の異なる水田土壌の理化学的特徴を明らかにする

材料と方法

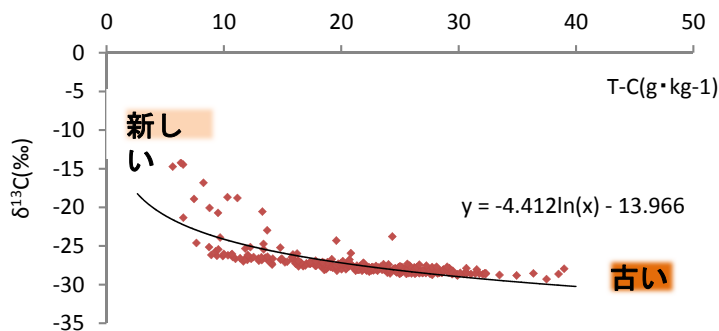
供試土壌：対象地域内の水田作土（298点）、調査項目：全窒素・全炭素・C/N比・CEC・交換性塩基・pH・炭素安定同位体自然存在比($\delta^{13}C$)・粒径組成

結果



全炭素：海岸側で低く、内陸側で高い

delta-13C：内陸側で低く、海岸側で高い



T-Cと $\delta^{13}C$ の関係

本地域の水田土壌の $\delta^{13}C$ は約-14‰から-29‰に減少した

delta-13Cの減少に伴いT-Cが増加した

結論

水田として利用する時間が長いほど土壌の全炭素は増加した。